

令和4年度 第5回大腸がん死激減プロジェクト連絡会議 議事要旨

日 時：令和5年1月30日(月) 19:00~20:00

場 所：Zoom を利用した Web 会議

参加者：6名

岸本信三（沖縄県立宮古病院）、佐村博範（浦添総合病院）、増田昌人（琉球大学病院がんセンター）、有賀拓郎（琉球大学病院）、金城徹（琉球大学病院）、浅野志麻（沖縄県立宮古病院）

欠席者：5名

糸数公（沖縄県保健医療部）、仲宗根正（那覇市保健所）、豊見山良作（那覇市立病院）、仲地厚（友愛医療センター）、宮里浩（那覇市立病院）

陪 席：2名

並里亜衣（琉大病院がんセンター）、仲村愛美（琉大病院がんセンター）

≪報告事項≫

1. 令和4年度 第4回大腸がん死激減プロジェクト連絡会議議事要旨について

増田委員より資料1に基づき、第4回大腸がん死激減プロジェクト連絡会議議事要旨について説明があった。

2. 沖縄県医師会長とのアポイントの件について

増田委員より津梁ネットワークのホームページ上に本プロジェクトのリンクバナー設置、コンサルト受付業務の協力依頼について沖縄県医師会の安里先生のもとへ説明に伺ったとの報告があった。

有賀委員より医師会から可否の判断を仰いでいる状態との説明があった。

3. その他

大腸がんの予防検診のモデル地域づくりを医師会長の安里先生よりご提案があったとの報告があった。

≪協議事項≫

1. 大腸がん治療方針に関するコンサルとシステムの構築について

佐村委員より相談員について、県立中部病院の森先生（腫瘍内科）、中部徳洲会病院の内間先生（外科）、友愛医療センターの安里先生（肝臓外科）の3名を追加したとの報告があった。

症例についてはあまり進捗がなく増えていないので、これからは難しい症例になるかもしれないが当施設からも出していくとの説明があった。

また、研究会へ非参加の施設に対して直接説明を行いたいと考えており、このシステムにアクセスしやすい状況を作っていきたいとの説明があった。

増田委員より月1回でも、症例を出していけたらいいのではないかとの意見があった。
岸本委員より前回の会議でも挙げたが、案内文書の作成、ラジオやマスコミ、YouTube等のSNSも活用して周知できるといいとのコメントがあった。

2. 大腸がんの予防について

3. 大腸がんの検診について

増田委員より医師会から大腸がん予防検診プロジェクトとしてモデル地域を作ってくれないかのご提案があり、宮古島地域がいいのではないかとの説明があった。

岸本委員より医師会も加わっていただき、宮古島市を対象に無料で検診ができるプロジェクトの立ち上げに協力したいとのコメントがあった。

有賀委員より市町村と企業の両方にも協力を仰ぎ、事業の運用は市町村がいいのではないかとの説明があった。

増田委員よりこのような取り組みを実施している市町村や企業から情報を集めていただきたいと提案があった。

金城委員より国立がん研究センターで東京の新島を対象にしたプロジェクト（新島スタディ）があり、検診を無料で行った実績があるので参考になるかとの説明があった。
青森県でもがんセンターと共同で検診、受診率を上げるイベントをしているので情報を集めたいとの説明があった。

4. その他

浅野委員より大腸がん相談室の進捗状況の表を随時見れるよう共有できたらいいとの提案があった。

令和4年度 第6回大腸がん死激減プロジェクト連絡会議 議事要旨

日 時：令和5年3月9日（木）19：00～20：00

場 所：Zoom を利用した Web 会議

参加者：6名

岸本信三（沖縄県立宮古病院）、仲宗根正（那覇市保健所）、佐村博範（浦添総合病院）、増田昌人（琉球大学病院がんセンター）、有賀拓郎（琉球大学病院）、浅野志麻（沖縄県立宮古病院）

欠席者：5名

糸数公（沖縄県保健医療部）、豊見山良作（那覇市立病院）、仲地厚（友愛医療センター）、宮里浩（那覇市立病院）、金城徹（琉球大学病院）

陪 席：1名

仲村愛美（琉大病院がんセンター）

≪報告事項≫

1. 令和4年度 第5回大腸がん死激減プロジェクト連絡会議議事要旨について
増田委員より資料1に基づき、第5回大腸がん死激減プロジェクト連絡会議議事要旨について説明があった。
2. メーリングリストの作成について
事務局にて作成したので進捗状況などをメーリングリストで報告していただきたいと説明があった。
3. その他
特になし。

≪協議事項≫

1. 医師会との共同作業について
有賀委員よりバナーデザインに関しては、医師会と確認しながら協議を進めていくことになるという説明があった。
佐村委員より大腸がん相談室に関する資料の内容について意見を伺い、変更した文書を医師会へ提出したいという説明があった。
2. 大腸がんの検診について
仲宗根委員より沖縄県生活習慣病検診管理協議会 消化器のがん検診分科会の内容についての報告があった。また、がん検診精度管理についての説明があり、精検受診率を

上げるためには、精検未把握率を下げる対策が必要だと説明があった。

佐村委員より進行してから病院へ来る人の多くは精密検査を受けていなく、精密検査を受けなかった場合どのような結果に至ったか等のデータが出せれば検査を受ける後押しになるのではないかとの意見があった。

浅野委員より症状があっても病院へ来なかった人に対し理由が知りたい。病院へ行くことが怖いと考えてる人がいれば何かできることはないかとのコメントがあった。

岸本委員より大腸がんについては精密検査を受ける人は少なく、マスコミやメディアの利用、イベントをおこなっても健康に関心がなければ精密検査を受けに行かない。どのように病院に行くよう伝えるかということが大事だとの意見があった。

有賀委員よりどうアプローチしていくのが今後の課題になるとの意見があった。

増田委員より国立がん研究センターのホームページ（がん検診について）を確認するよう説明があった。

乳がん検診・子宮頸がん検診・大腸がん検診の受診率向上対策に関する科学的根拠をまとめた資料に基づき、受診率を上げるための対策について説明があった。

各市町村でコールリコールを実施する、かかりつけ医から検診に行くよう勧めるなど、一人ひとりに声をかけることが受診につながるとの意見があった。

3. 大腸がん治療方針に関するコンサルとシステムの構築について

佐村委員より症例については提示には至らなかったとの報告があった。

津梁ネットワークホームページ内のバナー設置については準備中で、相談室設置要綱の資料では「事務局の組織」に医師会の知念さんを事務局長として加えたいとの説明があった。

また、「連絡会議の組織」を(1)室長、(2)副室長、(3)大腸がん死激減プロジェクト構成員に変更し、組織の名称については、大腸がん相談室連絡会議から運営委員会へ変更することとなった。

岸本委員より相談室を設置する目的のところで、この会議の名称にもなっている大腸がんによる死亡を減らすという言葉を入れてはどうかとの意見があり、追加することとなった。

訂正した文書の内容を改めて確認していただき、意見等がなければ医師会へ提出するとの説明があった。

4. 大腸がんの予防について

増田委員より検診をすることで、大腸がん死は減らせると考えているので適切なアプローチはしないといけないとの説明があった。

5. その他
特になし。